

深川消防団ニュース



さきもり

発行 深川消防団
 所在地 〒135-0042
 東京都江東区木場
 3丁目18番10号
 深川消防団本部
 TEL:03-3642-0119
 FAX:03-3641-4422

消防操法大会 第2分団が2連覇



第40回 深川消防団消防操法大会

平成30年5月20日晴天の下、記念すべき第40回目の深川消防団消防操法大会が、冬木1番首都高速9号深川線高架下数矢小学校北側にて開催されました。結果は、昨年に引き続き第2分団が優勝しました。女性団員を含めた第2分団が優勝したことは、深川消防団とし、史上初となり、記念すべき大会となりました。

第2分団指揮者コメント

(第2分団 今井編集委員)

今年の操法大会は、例年に比べて一か月ほど早く開催が決定されたことで、各分団の皆様にとっても訓練日程調整に相当苦労されたのでは、と思います。第2分団は、昨年度都大会出場のために10月まで訓練をしていたこと、2番員が昨年度に引き続き選手として残った事、そして、前年メンバーが今年度のメンバーへマンツーマンでの指導に当たったことが『優勝』の決め手だったと思います。もちろん、わたしたち第2分団の結束力と皆様の熱い応援が、選手にとって一番の『原動力の源』となつて、今年の優勝を飾ることができました。

(指揮者 第2分団副分団長 佐久本 学)

深川消防署 有明分署 落成式

平成30年7月4日(土)に有明分署新庁舎の落成式が行われました。

第10分団の管轄区域内に、豊洲出張所と有明分署と新しい庁舎が二つになりました。建設中の有明分署を見学に行きましたが、周辺にはオリンピック関連施設が多数建設中で、その中でどんな建物が建てられるのかと楽しみにしていました。有明新庁舎の建設が終わり、再び様子を見に行くと思像していたよりも立派な建物ができていました。新しくできた有明分署は湾岸地域にあり、少し不便を感じるかもしれませんが、私たちの住む近所にこんな新しい消防署ができたことはとても嬉しいです。東京2020大会を2年後に向かえ、準備が整ってきたと実感しています。(第10分団 榎山編集委員)



東京国際防災展 2018

平成30年5月31日〜6月3日の4日間、東京ビックサイトで「東京国際防災展 2018」が行われました。

広い会場内では、防災や災害についての対策と知識を学べるコーナーや、防災に関する様々な体験コーナー、昔の消防車両の展示や消防グッズの販売など…とても一日では回りきれないほどのイベントコーナーが、屋内会場及び屋外会場のどちらでも盛大に行われていました。今回の防災展では、屋内会場で子供たちが遊びながら火災や、防火服を試着できました。私たちは、消防団の可搬ポンプ搬送車に乗れ



る体験コーナーを担当していました。展示の中でも、国内で初めて導入したVR(仮想現実)防災体験車(愛称・VR BOSAI)は賑わいをみせ長蛇の列ができていました。実際にVR BOSAIを体験した人に話を聞いてみました。「本当にリアルで、けっこう怖かった!これは是非、体験して体で災害の怖さを感じておいたほうがよいと思う!」といった感想が寄せられ、そのリアルさは、ゴーグルを装着してあたりを見回すと、仮想現実とは思えない程の臨場感を味わうことが出来ます。いざ映像が流れると、思わず右へ左へと首を回し、そのあまりのリアルさに触れてみようと思えば、皆さんも是非一度は体験してみてください。休憩の合間に、どんなイベントがある



のだろうと屋外会場も見に行きましたが、今回のイベントの規模の大きさにびっくりしてしまいました。会場の一角では、日本の消防車だけでなく、米軍の消防車も何台も並んでいて、その大きさを見て比べることもできて、日本との違いを感じたりもしました。今回の東京国際防災展 2018は、展示や体験といった学べるブースがないほど大きなイベントだったので、次回の時にはお客さんとしても行ってみたいと思うほどのイベントでした。(第10分団 榎山編集委員)

江東区合同水防訓練

平成30年5月22日に江東区合同水防訓練が木場公園で行われました。今年の夏は例年以上に多くの台風が発生し、日本各地で豪雨による水害が多く発生しました。深川地区においては、大規模な下水道施設（木場公園から東雲に抜ける江東幹線）を建設中です。

江東区では顕著な水害被害は出ていないものの、多くの水路に囲まれた江東区は、いつ災害に見舞われるかもしれません。梅雨の時期に先駆けて行われた水防訓練は、消防団員や消防署員、区役所職員、下水道職員、国土交通省



など様々な関係機関が集まり、多様な水害対策のデモンストラーションが行われました。消防団員は積み土のう工法などの訓練を行いました。

(第8分団 庄井編集委員)



江東区総合防災訓練地域訓練

平成30年7月1日(日)に、東陽2丁目にある南陽小学校で江東区総合防災訓練地域訓練が行われました。

この訓練は災害が起きた時に、自宅で生活ができなくなった地域住民の生活の場として、江東区が南陽小学校を避難所として開放する訓練です。南陽小学校を避難所として指定する住民と近



隣の学校の生徒が参加し、各関係機関と避難所開設会議から各種訓練を行うものとなっておりま

す。避難所開設の模擬会議には深川消防団第8



分団の堀川分団長も参加しました。訓練は本番のような本格的なシナリオで進行され、見学者も災害時にはどのような問題が起こり、その問題にどのように取り組んでいくのか、よく理解できたと感じます。その後、参加者は起震車体験や初期消火訓練、煙体験ハウスなどの様々な体験をスタンプラリーでまわったり、炊き出し訓練では、深川麺類協同組合にソーメンを作って頂いたりしました。様々な訓練体験の中でも、VR施設で防災について学べるブースが一番人気でした。訓練のクライマックスとして、深川消防署のレスキュー隊による救助活動演習があり南陽小学校の屋上からロープで降下する姿には皆目を奪われていました。閉会式が終わったあとに、自衛隊による炊き出し訓練もあり、思いがけずおいしいカレーも食べることができました。

(第8分団 庄井編集委員)

木場五丁目町会防災訓練

平成30年7月8日(日)木場公園で防災訓練が行われました。初期消火訓練として、町会のスタンドパイプを実際に使った放水訓練を行いました。例年この時期は水不足になると実際に水を使っている訓練ができないため、今年はその心配もなく、集まった町会の皆が筒先を持つての訓練をすることができました。やはり放水は実際にどのくらいの反動があるのかを体験できてよかったです。

その後、木場ミドリアムに移動して応急救護訓練を行いました。AEDの使い方や心臓マッサージを実際にやってみてもらいました。夏の炎天下の中、心臓マッサージを行うことはかなりの重労働です。皆さんに体験してもらい、いざ心臓マッサージを行う時は、交替しながら心臓マッサージを続けられるように訓練ができたと思います。

今年も猛暑であったため木場公園内の見学はありませんでしたが、実は木場公園には防災公園として、様々な防災施設が準備されています。涼しくなってきましたら、防災設備を探しながら木場公園を散策するのもいいですね。

(第7分団 藤田編集委員)

特集



例大祭 深川神明宮本祭り

平成30年8月11日に深川神明宮の宮御輿巡行の警戒、12日に町会の御神輿勢揃いに伴う消防団の放水訓練を行いました。

11日の宮御輿巡行の警戒は朝から夕方まで一日中の警戒でした。朝から既に汗が止まらないほどの暑さで、御神輿を担いでる方も周りにいた方も熱中症は大丈夫かな？と心配していましたが、皆さん暑さに負けずに、無事に宮御輿巡行を終える事ができました。

そして、12日の町会の御神輿勢揃いにおける放水は、前日の暑さが嘘だったかのように、気持ちの良い天候に恵まれました。放水してる消防団員も、その水を浴びながら御神輿を担いでいる方も、祭りとその人出の熱気に包まれた例大祭となりました。第1分団や第5分団の方々のご協力もあり、私も数ヶ所で放水を終え、第3分団の警戒区域を無事に終える事ができました。もちろん、何事も無事に終える事が出来たのは、例大祭に参加された方、皆さんのおかげです。

これからも消防団活動において、皆さんの健康と安全を守り、活動に励んでいきたいと思ひます。

お祭り 特集



例大祭 深川神明宮本祭り

平成30年8月11日に深川神明宮の消防団の放水訓練を行いました。

11日の宮御輿巡行の警戒は朝から夕までの暑さで、御神輿を担いでいる方も暑さが、皆さん暑さに負けずに、無事に宮御輿を巡行し、そして、12日の町会の御神輿勢揃いの良い天候に恵まれました。放水しても、祭りとその人出の熱気に包まれたこともあり、私も数ヶ所で放水を終え、第一、何事も無事に終える事が出来たので、これからも消防団活動において、皆さん

神輿渡御において消防特別警戒を無事に滞りなく祭礼を終えることができました。

第2分団 今井編集委員

深川管内 お祭り



宇迦八幡宮例大祭

平成30年8月12日、3年に1度の宇迦八幡宮例大祭に伴う神輿渡御において消防特別警戒を実施しました。当日は、事故や怪我人・急病人などの発生もなく無事に滞りなく祭礼を終えることができました。深川消防団員一同は、気を引き締めて警戒にあたりました。

第2分団 今井編集委員



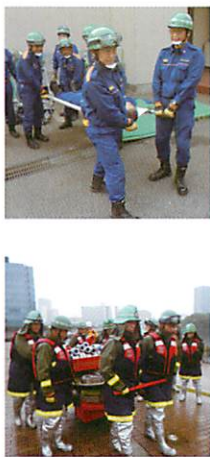
実践的活動訓練

平成30年7月22日(日) 深川消防署裏庭にて、猛暑の中、消防団実践的活動訓練が行われました。この訓練は、大震災時に深川消防署にある深川消防団本部を主軸として、総合的な活動能力の向上と配置資機材の活用方法を習熟することを目的として行われます。集まった消防団員をA班、B班の2つの班に分けて訓練が行われました。活動訓練は実戦形式で行われ、大震災が起きたと仮定して始まります。私たち消防団は配置されている無線を使って、情報を集めながら災害が起きた現場へと向かいます。そして、無線から現場の状況が届きます。「要救助者2名発見！」救助班が足早に駆けつけ、救助活動を開始しました！要救助者は瓦礫に挟まれていて、「大丈夫ですか？今助けますからね！」と声を絶やさず励ましながら救助活動が続けます。現場はピリッとした緊張感に包まれています。その緊張感の中では、私たちのような経験の少ない団員は目の前の状況に精一杯になってしまっていますが、分団長たちは長年の経験から、私たちに的確な指示を出し、その指揮の下、必死に救助活動を行います。無事に要救助者を助け出した時というのは、やっぱり、ホッと安心します。配置資器材の

使い方は、特別救助隊員の方に説明を受けました。資器材というのは、現場で使えるということはもちろん重要なことです。いつでも現場で使えるように普段からのメンテナンスや点検もとても大切であるということ。そして、災害現場ではそれら全てが直結していくということも学びました。

このようなひとつひとつの訓練の積み重ねが、深川の町を守って行くと感じた、充実した訓練となりました。

(第9分団 岩淵編集委員)



震災時を想定した実践的な消防活動訓練

平成30年6月24日(日)に震災時を想定した実践的な訓練として、昭和大学江東豊洲病院の隣に広がる埠頭で、河川から水を吸い上げて放水する、長距離送水訓練を行いました。もし都内で大震災が発生した時、街中にある消火栓では震災で発生した火災に対応することが難しくなる可能性があります。その場合は、海や河川から水を吸い上げて火災に対応することになります。海や河川から消防団に配置されている

可搬ポンプという資器材を活用して水を吸い上げたとしても、火災の発生している場所まで何本もホースを伸ばして水を送らなければなりません。

団員は雨の中、防火服を着たその上から更に救命胴衣を身に付け、活発に訓練に望みました。実際に可搬ポンプを活用して河川から水を吸い上げ、ホースを何本も延長して水を送ります。何本も繋げたホースは、本数が増えれば増えるほど水圧は弱くなっていきます。すると、もう1台の可搬ポンプを中継して、弱った水圧を再度上げて、さらに遠くへ水を送るために何十本もホースを繋ぐ必要があるのです。他にも延長した先での放水訓練では、放水したままの筒先の交代要領や筒先のスタンドをつけた送水など、長時間の活動時に対応できるような実践に即した訓練を行いました。普段やることのない可搬ポンプの中継などでは問題点もわかり、より効果的な訓練になりました。この埠頭では、消防団は以前から様々な訓練を行ってきました。10年以上前の風景を思い出しながら、周りを見渡してみると・・・。当時、埠頭周りには高い建物がなく、遠景には高いビルが建ち始め、町が徐々に発展をし始めたという感覚でしたが・・・現在では、もはや見渡す限りビルでとり囲まれていて、この町の発展を実感するのです。(第8分団 庄井編集委員)

消防団協力事業所

弊社は、防火・防災に積極的に取り組んでいます。

http://www.teisoh.co.jp/ E-mail:info@teisoh.co.jp
PHONE.03-3642-0121 FAX.03-3641-1763

TEISOH 株式会社 帝国倉庫
〒135-0024 東京都江東区清澄 1-5-1

消防団協力事業所

株式会社 **ムトウユニパック**

代表取締役 社長 武藤佳資

私たちは、本社ならびに各事業所を通じ、地域社会への貢献を目指しております。



本社 / 東京都江東区永代 1-7-12 TEL 03-3642-1141(代表)
http://www.mutoh-u.co.jp/
支店・出張所 / 城南・東京中央・城西・横浜・千葉・四ッ谷・さいたま
栃木・前橋・新潟・水戸・長野・大阪・仙台

消防団幹部親睦視察研修

毎年恒例となりました消防団幹部親睦視察研修、今年は第7分団が研修の幹事を担当しました。

研修の初日は、陸上自衛隊の朝霞駐屯地へ視察研修に行きました。そこでは自衛隊の地区隊長に案内をしてもらい、振武臺（しんぶだい）記念館で戦時中の旧予科士官学校の様子を見る事ができました。その後、日本三古泉として有名な、いわき湯本温泉へバスで移動しました。宿泊先での懇親会は、日頃の消防団活動での出来事や各分団の事情などをお互いに話し合い親睦を深めました。翌日は東日本大震災の復興状況を視察に行きました。バスの中では語り部さんが当時の夢ではないかとも思うような出来事を語ってくれました。大津波での多くの別れと、沢山の出会いは忘れられないことや思えない出せない多くのことに「生かされている」と感じた語り部さんのお話は、とても印象的でした。こういったお話を他の皆さんにも聞いてもらって、



忘れてはいけないことだと思いました。

(第7分団 藤田編集委員)

深川消防団幹部親睦夏季懇親会

平成30年8月24日（金）に行なわれた深川消防団幹部親睦夏季懇親会は、



8月17日にご逝去されました第8代深川消防団長唐鎌五郎様を偲んで、黙とうから懇親会は始まりました。皆さんのご挨拶、その一つひとつ

が、唐鎌さんとの思い出を述べられていました。唐鎌元団長といえば、この「さきもり」創刊時の団長だったことは皆さんご存知ですか？当時「さきもり」の記事内容も定まらないまま、随分と御骨折りにいただいたのを思い出します。深川東天紅で行われた深川消防団幹部親睦夏季懇親会は、上座に陰膳を添え、唐鎌元団長を囲んでの、にぎやかな懇親会となりました。

(第8分団 庄井編集委員)

消防団協力事業所認定!!

平成30年7月より、株式会社テツソートランクルーム様が、新たに「消防団協力事業所」の認定を受けました。



深川消防団管轄内には12ヶ所の消防団協力事業所があります。ここであらためて、「消防団協力事業所」とは何かを調べてみました。「消防団協力事業所表示制度」というのは、事業所の消防団員への協力が社会貢献として広く認められると同時に、事業所の協力を通じて、地域防災体制がより一層充実されることを目的とした制度です。地域全体が防災力を高めていく上で、その町で働く事業所の協力というのは、とても大切な役割を果たしています。消防団員というのは、普段は普通に生活をして、皆他に仕事もしています。災害が起きた時、必ずしも自分自身が自分の住む街にいない、ということもあるのです。その時に、この深川で働く事業所の方で、なおかつ消防団員になっている方というのは、とても頼りにできる存在です。災害が起きた時、自分たちの町は自分たちで守る!! 今回ご協力頂きました、株式会社テツソートランクルームの皆様有難うございました。また、第9分団新入団員のお二人、地域のために送り出してくる事業所の皆様のため、また地域に住む皆様の為に、これからも一緒に頑張ります。

(第9分団 岩淵編集委員)

消防団協力事業所

弊社の社員も消防団員として活動しています。

社員一人ひとりが、防火・防災の知識・技術の向上に取り組んでいます。

ご宿泊・ご婚礼・ご会合等、お気軽にお問い合わせください。

East 21 ホテル イースト21東京
オークラホテルズ&リゾーツ
〒135-0016 東京都江東区東陽 6-3-3
03-5683-5683 (代表)
www.hotel-east21.co.jp

消防団協力事業所

「大震災はいつ起こるか分からない」

弊社は、消防団活動に協力しています。

丸八倉庫株式会社

江東区富岡 2-1-9
HF 門前仲町ビルディング 4階

災害ボランティアの経験を
活かしXデーに備える

七月に発生した西日本豪雨災害で亡くなられた方のご冥福を心からお祈り致します。また、被災された方にお見舞い申し上げます。私は、僧侶として阪神大震災の際に神戸の火葬場で読経と、避難所でのボランティア、東日本大震災では、大槌町で写真洗いと物資の仕分けのお手伝いをさせて頂きました。災害大国に生きる者として、いつか来る災害の日に備える。すなわちXデーに備えて準備をしなければなりません。先日私の寺に、東京都宗教連盟より「都内宗教施設における平常時・災害時の受入体制調査」というアンケートが送付されて来ました。首都直下地震発生時に、一時滞在施設(三日間)又は避難所(二週間程度)として受け入れてもらえるか、その際に何人収容可能か、飲食物をどの位保存してあるか?などを調べるものです。非常時になるべく協力出来るようにと、普段から二リットルの水を買って、古い水から使うようにしたり、墓用の線香を着けるのに使用するカセットコンロを多目に備えています。他には、寺の居住部分の屋上にソーラーパネルを設置し、庭にはソーラーライトを設置したりとライフラインとは独立したものを揃えるようにしています。防災用

品を非常時専用と考えず、普段から意識して使用し、減災に役立てたいものです。(第4分団 正本編集委員)

タイムスリップ

深川消防団がいつ発足されたかをご存知ですか?深川消防団は昭和22年11月に5個分団250名により結成されました。本年度実に72年目を迎えます。当時の消防団を知っている、枝川一丁目町会の野村町会長にお話を聞いてきました。

岩淵「消防団になられたきっかけはなんですか?」

会長「消防団発足当時から消防団員だった親父が亡くなり、そのまま後を引き継ぐことになったね。」

岩淵「お父さんも消防団員だったのですね。」

会長「そう、当時第9分団地域についてのは平地で工場が多く、一軒家はプロパンガスを使用している家が多かった。だから、一度火の手が上がるとすぐに火事が広がるから、真っ先に筒先を持って現場に向かって行ったな。」

岩淵「そういった体で体得した忘れられない経験があるからこそ、誰よりもそのご苦労を知っているのですね!すごい!」

会長「自分の生まれ育ってきた町だからね!伝統は誰かが守っていかない

と!」

岩淵「消防団に一言お願いします!」
会長「30年前のようにどんだん若い人を増やして地域を守ってほしいね!そして、町と子供たちの為に頑張ってください!」

私は町並みを見ながらふと、「私が子供時代お使いにいったお店のおじさんが消防団をやって、知らない間に街を守ってくれたんだなあ」としみじみ感じる夏休みでした。

(第9分団 岩淵編集委員)

さきもり編集委員

分団名	任	務	階	級	氏	名
団本部	監	修	団	長	平	敏夫
団本部	編集委員長	副	団	長	椎	名 貞雄
団本部	編集委員長補佐	副	団	長	赤	澤 光幸
団本部	編集責任者	分	団	長	中	澤 聡
第一分団	委	員	団	員	中	村 哲也
第二分団	委	員	班	長	今	井 寛隆
第三分団	委	員	班	長	中	島 沙江子
第四分団	委	員	部	長	正	本 光生
第五分団	委	員	団	員	梅	内 美園
第六分団	委	員	班	長	高	野 俊勝
第七分団	委	員	部	長	藤	田 亨子
第八分団	委	員	副分団長	長	庄	井 勤
第九分団	委	員	団	員	岩	淵 初美
第十分団	委	員	部	長	榎	山 美恵子

編集後記

時間が過ぎ去るのも早いもので、私が消防団に入団してもう10年にもなります。今年の夏は例年よりも暑さを感じるところでしたが、皆さんはいつも気を付けていることはありましたか?熱中症というものをご皆さんは耳にすることが多いかもしれませんが、今日は熱中症というものを一緒に学んでいきましょう。熱中症とは、暑熱環境で発生する障害の総称で、熱失神、熱疲労(熱ひはい)、熱性けいれんなどに分けられます。今年も異常気象の関係で35℃を超える日が多かったですね。

熱中症とは、知らないことと無理をすることで健康な人に生じるもので、適切な予防処置さえすれば防げるものです。



皆さんも、体調や風邪、具合が悪いときは無理をしないで、周りの人に知らせて気を付けていきましょう。

(第6分団 高野編集委員)

